

### 第3回 杉並区立神明中学校校舎改築検討懇談会（要旨）

会 議 名	第3回杉並区立神明中学校校舎改築検討懇談会
日 時	令和4年8月5日（金）午後3時00分～4時00分
場 所	井草中学校 3階多目的室
出 席 者	懇談会委員13名（欠席15名）
傍 聴 者	0名
次 第	1 施設見学（杉並区立井草中学校） 2 事例研究（杉並区立井草中学校 多目的室） 3 事務連絡
資 料	資料1 第3回神明中学校校舎改築検討懇談会行程表 参考資料 井草中学校 施設概要 参考資料 井草中学校 学校要覧（令和4年度）

教育施設計画 推進担当係長	<p>皆さん、お疲れさまです。時間になりましたので、事例研究を始めさせていただきますと思います。</p> <p>本日、司会進行役の校長先生が広島に平和授業の視察に行かれていますので、私のほうで司会進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>この後に使う資料につきましては、席上に配付していますA3のカラー刷りの資料2枚を使ってご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事例研究を始めたいと思います。</p> <p>今回、神明中の改築なのですが、これまでも懇談会でお話に出ているように、神明中は土地が不整形な形で、敷地内で工事がきちんとできるのかというようなご意見があったかと思います。</p> <p>今回、工事中のプロセスなどを皆様とイメージ共有を考えて、近隣自治体を含めて視察を検討していたところなのですが、なかなか神明中と似たような事例の敷地の中学校というのが見つかりませんでした。</p> <p>そこで、今回、設計を請け負っていただいている佐藤総合計画さんにご相談して、その際、これまでの実績の中で事例を探していただきまして、今回小学校の事例とはなるのですが、敷地面積や敷地形状などで課</p>
------------------	---

	<p>題のあった事例を探していただきまして、今回、併せてそのご説明をしていただくとなっております。</p> <p>事例の学校の諸室であるとかしつらえは、自治体によって考え方が異なる部分がありますので、その辺りは参考として聞いていただければと思います。</p> <p>それでは、説明のほう、よろしく願いいたします。</p>
設計事務所	<p>よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、最初に、佐藤総合計画の紹介をさせていただいて、その後、我々の中でも学校教育施設を専門的にやっているチームですので、その中の実績、どれぐらい今までその仕事をやっているかということと、あと、学校について研究をしたりですとか、我々のチームの中でいろいろ考えていることというのを、未来の学校という形で紹介をしたいと思います。その後に、今お配りしているA3の資料の学校2つについて紹介をさせていただければと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>まず、佐藤総合計画という会社なのですけれども、1945年に一番最初に佐藤武夫が開設して、現在に至ります。もう約77年、78年目になる会社になります。</p> <p>主に公共建築物、庁舎ですとか学校・ホール・図書館、病院、そのほか、都市開発としてオフィスビル、高層マンションなんかも手がけております。</p> <p>オフィスとしては、我々は東京本社にいますのですけれども、東北、関西、九州、横浜、中部、あと北京にもございます。北京オリンピックの際には、スタジアムの建設とか、その辺も手伝いをさせていただきました。</p> <p>スタッフとしては、330人。我々、今日来ている3名は建築意匠とあって、いわゆる設計です。建築のメインフレームを設計する部門ですけれども、そのほかに、構造担当ですとか、機械設備担当、電気設備担当、積算担当、工事監理などがいます。</p> <p>実績として、皆さんが一番分かりやすいのが東京ビックサイト、もう二十数年前になるのですけれども、こういうのをやらせてもらっています。最近では高崎の芸術劇場というところで、高崎市のホールをやらせていただきました。あと「ミライオン」という、長崎の県立と大村市の市立図書館が合体した県立図書館という形のものやらせていただいております。</p> <p>杉並区での実績なのですけれども、一番古いのは杉並公会堂、荻窪の</p>

駅のすぐのところにあるものです。右のほうの下ですけれども、天沼小学校。現在設計をさせていただいているのが高円寺図書館等複合施設ということで、高円寺駅から南のほうに少し行ったところに、現在設計をさせていただいております。

次、学校チームの実績なのですけれども、これは過去15年ぐらい、学校チームとして学校を本格的にやり始めてからのものになるのですけれども、建設中、設計中のもの含めて、約32校、あります。

後ろに丸印がついているのが公立の小学校、中学校、高等学校になります。民間の学校から都内、地方の小学校、中学校、高校もやらせていただいております。

ここには載せていないのですけれども、大学のほうも幾つもやらせていただいております。

実際には、教育施設は35人のスタッフでやらせていただいております。

上の3つが、今、都内の中学校、小学校の実績です。大田区立の志茂田中学・小学校。

上の真ん中が港区の赤坂中学・小学校、これはこの夏ぐらいに竣工して、秋ぐらいから子どもたちが使う学校です。

一番上の右側が品川区立小中一貫校というところで、小学校・中学校、これはもう11年前になりますけれども、小中一貫校の先駆けになるような学校もさせていただいております。

このほか、下のほうは宮城県の山元町立山下第二小学校、これは震災後に復興の小学校としてさせていただきました。あとは、千葉県の習志野市立谷津小学校、山梨県の県立青洲高等学校というものをやらせていただいております。

続きまして、「AXS学校」ということで、我々、佐藤総合計画が考える「みらいの学校」についてご説明をいたします。

ポイントとしては、ポイントというか、今我々が思考しているのは6つあるのですけれども、今回は1番、2番、3番、6番についてご説明をします。1番がアクティブラーニング、2番が縮小化社会、3番が災害、6番がクリエイティブオフィスというものについて簡単にご説明します。

まず、我々幾つか学校をずっとやってきて、今社会情勢とか学び方ですとか、その辺が大きく変わってきている。変化する社会に教育が求められるものというところで、まず新学習指導要綱が大きく変わって、「生

きる力」を身につけようというところが大きな目標となっています。それは、主体的な学び、学びに向かう姿勢・知識技能・思考力・判断力・表現力、そういうものを総合的に学ばないといけないという形のものを文科省も求めていると。

それに対してどういう学び方がということで、アクティブラーニングと、主体的学びを中心にした学習形態へと変化していくと。

アクティブラーニングとは何ぞやというところで、下のほうに薄く書いてあるのですけれども、一方的な講義形式ではなく、生徒の能動的な学習への参加を取り入れた学習方法。能動的に学習することで、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的な能力を育成する。要は、今まではどちらかという講義形式のものというのが、講義形式を全て否定するということでは当然ないです。それも取りながら、子どもたち同士で教え合う、学び合うという形が重要だというのが、アクティブラーニングの考え方です。

そのアクティブラーニングをどう実践させていくかというところで、我々は、やる気・意欲を引き出す学校をつくらうということを考えています。知的好奇心を発揮し学びに集中したり、仲間と交流することで社会性を身につける。生徒が安心して生活できる環境が重要と考えています。安心してそこに生活をしないと、勉強というか、何に対しても、我々もそうですけれども、そこが安心できる場所ではないと、なかなかいろいろなことに向かい合えないので、そういう空間をきちんとつくってあげようということを考えています。

「建築的な提案」としては「アクティブラーニングを実現」する教室、教室周りの空間をちゃんと再構成しよう。生徒の日常的な居場所、教室だけではなくて、自分が落ち着ける、安心できる場所をきちんとつくってあげよう。学校全体が学びとなる「ラーニングコモンズを中心」とした学校づくりということを提案しています。

では、その「アクティブラーニング」・「安心できる居場所」というのをどうつくっていくかということで、提案ですので、必ずしもこれが我々の今後設計していく中で全てを実現するというのではなく、そこは教育委員会さんですとか委員の皆様と一緒につくっていただければいいかなと思うのです。

1つは「正面性の無い教室」。今、集中して、皆さん、前を見ていただいているのですけれども、これがグループに分かれたときに、いろいろなところでグループごとに学習するというところで、後ろで発表したり

だとか、前で発表したり、こっちで発表したり、いろいろな形式が出てくると思いますが、それにきちんと対応するような教室をつくらうと。

次に「広い空間」。アクティブになってくると、今までの机の配置だけではない形が出てくるので、あと、教室だけではなくて、そのほかの場所にもきちんと学習できる場所をつくってあげようということを考えています。

これはちょっと技術的な話ですけれども「高い吸音性」。いろいろなところで授業、グループワークが始まりますので、声がいろいろなところに出ますので、きちんとした吸音をした空間をつくってあげる。

もう1つ「くつろぐ空間」というのも大切だと考えています。アクティブラーニングというのは、一方的な授業よりも体力とか、集中を使いますので、休憩時間は、一人になったり、友達と会話をしたり、そういうきちんと落ち着ける場所ですとか好きな場所をきちんと学校内にそれぞれが持っているというような学校をつくりたいと思います。

もう1つ「家具」。家具も、今までのような家具ではなくて、一斉授業からグループ授業に移りやすい家具を提案したりですとか、当然、ICT、プロジェクター、ネットワーク、その辺の技術もきちんと進めていくと考えています。

次に「学校全体が学びの場」という考え方で、ラーニングコモンズを中心に学習形態を構成する。小学生と中学校の違いは、小学校というのは、子どもたち、まだ自立できていなくて、中学校になるとだんだん自立して自分で学習できるというふうになってきますので、教室だけが学習の場だとは我々は考えていなくて、そうしたときに、子どもたちがやりたいときにできるような環境を整えてあげようと思っています。

ラーニングコモンズという考え方は、図書館ですとかメディアを中心にした学習の場をつくらうと、そこには、教科の作品であったり、学習の成果だったりとか、それを発表できる場所をきちんと学校内に整えよう。興味を誘うような学習展示、これは先生方の協力が要るのですけれども、理科でしたら宇宙の展示ですとか、そういう興味の湧くようなものを展示できるスペースを設けて、子どもたちの意欲を引き出すような場所をつくらうと。休憩時間ですとか、放課後とか、自由に学習だったり交流ができる場所もつくってあげようということを考えています。

下の写真は、先ほどの山梨県立の青洲高等学校、高等学校なのですが、ここには階段があるので、この下が昇降口になっています。昇降口からずっとらせん状に教室まで行くような動線になってい

るのですけれども、全校生徒が朝必ずここを通ります。その真ん中に図書室を設けてあげて、まずメディアがすぐそばにある。いつでも、そのメディアに触れられる。

向こう側の写真が、発表できる場所をきちんとつくってあげよう。あれはたまたま音楽部の方が合唱の練習をしているのですけれども、学校の真ん中でそういう発表とかをする場所をつくってあげる。放課後は、ここの前にテーブルがあり、実はここの裏にもカウンターテーブルがあって、子どもたちが勉強しているのです。そういう場所をきちんと、教室以外にもいろいろな場所で、他学年の子や、他のクラスの子とも交流できるような場所をつくってあげようということを考えています。

次に、縮小社会ということで、これから人口減少ですとか少子化、核家族化ということで、多世代交流が希薄になってくるだろうというところで、学校が地域交流の拠点、地域の文化を継承する拠点として役割を求められているのではないかと。地域と学校が支え合う仕組みづくりを考えたいと思っています。

2つ視点があって、学校が地域を支える。もう1つは、地域が学校を支える。

学校が地域を支えるというのは、地域の中の中心施設というのが今なかなか見つけられない中で、地域の文化や風土というものが少し失われているのではないかと。それを守るきっかけに学校がなり得るのではないかと考えています。

地域が支えるというのは、地域の人材が学校をサポートする。これは既に、多分神明中学校さんではいろいろされていると思いますけれども、それをさらに活性化できないか。社会で実践している地域の人が子どもをサポートする。また、高齢者の活力を活用する。学校の管理をサポートする。

これは職員の負担軽減にもなるので、後ほど教職員の方の話もするのですけれども、教職員の負担を軽減することで、先生の本来の仕事をきちんとできる時間を確保する。

建築的な提案としては、地域の文化の拠点として、地域との関係性を持てる空間をきちんとつくってあげよう。将来的に余剰空間の活用ということで、特に都内では、体育館ですとか校庭だとかというのは、地域の中では貴重な広場空間としてあると思います。それをどういうふうに有効活用していくかということを考えていきたい。

さらに、将来転用・拡張への対応と。どういうふうに人口推移、子ども

もたちの人口が変化してくるかは、さらに 30 年後、50 年後、分からないですけれども、それにもきちんと対応できるような、フレキシブルな計画、その汎用性があるような計画をしたいということを考えています。

具体的には、地域の文化の拠点としては、地域ギャラリー・イベントスペースをきちんと用意してあげる。祭りですとかイベントなんかを開催できるような仕組みづくり、または、学校全体のゾーニングを考える。

余剰空間の活用としては、体育館、校庭、広い場所を利用しやすい計画。特別教室は、将来的に地域利用も想定したような計画をする。

教育・生涯学習の場として、将来の転用・フレキシブル。これについては、就学人口が減った際に、地域施設として利用できるような、または、学校と地域が共有できるような工夫というのが必要かなと思っています。

次に、災害です。これも現在、想定外な様々な災害というのが起こるような時代になってくる。そういう意味で、地域防災の拠点として、学校が改めて大きな役割というのが必要だと考えています。

1 つは、日常的な関わりが防災拠点としての機能を強化する。地域の方が日常的に学校を利用して施設を熟知していれば、教職員との連携も取りやすい。災害時の防災拠点として移行したときも、地域の方が中心となることができるというところで、機能強化にもつながると考えています。

もう 1 つは、地域開放エリアがそのまま防災拠点になるゾーニング。防災については、救命避難期、生命確保期、生活確保期、教育活動再開期と、4 つの流れがあると考えています。

1 番の救命避難期というのは、災害が起きてすぐです。そこにまず避難してくる時期、そこへどういう対応をするか。

次に、2 番の生命確保期は、避難所に来て、生命をきちんと確保するまでの時間。要は、避難物資が来るまでの時間です。インフラが閉じていけば、インフラが復旧されるまでの時間。

次に、3 番が生活確保期ということで、支援が行われる、そこで数日間生活する期間をいいます。

4 番が、教育活動を再開する。要は、避難所になっていても、教育活動というのは継続的に、すぐに行えるように。それもゾーニングの工夫でできると考えていますので、その辺を工夫していきたい。

1 つは「建築的な提案」としては日常的に関われる仕組みづくり。様々

な人、これは高齢者、乳幼児、その他支援が必要な方々への対応ができる施設計画。

地域が日常的に関われる仕組みというのは、先ほどの地域施設という形です。

次に、様々な人への対応ということで、いろいろな年齢の方がいらっしゃいますので、その人たちに対してもきちんと対応できるような部屋を用意してあげるといった形を考えています。

すみません。ちょっと飛ばします。

我々が考えることというのは、神明中学校をこれから改築していく基本方針とリンクしてくような形になっていきますので、そこも含めて考えていきたいと思っています。

事例紹介です。

まず、下石神井小学校です。

下石神井小学校は、すぐその辺です。上井草の駅の北のほうにあります。ここは、練馬区でも児童数が多くて、ただ、敷地面積が小さい。なおかつ、第一種低層住居専用地域で、規模に制限がある。その中で、地域と共生しながらどういうふうにつくっていくかということを考えながら設計をしました。

これが鳥瞰になります。

平面です。平面は比較的単純なのですけれども、1階、2階、3階建ての建物になります。1階の南側に体育館があって、北側に給食室があります。給食室の前辺りに職員室があって、この少しオレンジ色のところが普通教室。1階から2階、3階。教室数がすごく多くて、全てをクラウドに向けるという配置をしています。こちら側の濃いオレンジのところが特別教室になっています。

建替計画です。

もともとこういうL形の教室だったのですけれども、まず赤い部分に仮設校舎を建てました。ここの大変だったところは、3周ぐるぐると道があるように見えるのですけれども、実はこちら側の、東側の道路は約1.5メートルの段差があって、向こうから工事車両を入れることができなかったと。この道からとこの位置からしか入れないというような状況でした。

まず、赤いところに仮設校舎を建てて、L形の緑色の部分を半分壊しました。そして、既存校舎と仮設校舎とプール、ここがプールになるのですけれども、プールを使用しながら建て替えをする。



次に、新校舎ができたなら、仮設校舎を赤いところなのですけれども、半分壊して、こちら側の既存校舎を壊して新校舎をくっつける。その後、仮設校舎を壊して、既存プールを壊して、新プールと校庭を造るといふ、仮設校舎から合わせると、1期、2期、3期、4期にわたる工事という形になっています。

密集した住宅地の中でどう共存していくかということで、高さ10メートルの中で建てなければいけないということで、階高3.15メートルの中で教室の高さ2.7というものを確保しようというところで、苦労しております。

それを実現するのに、この場合は鉄骨造としました。鉄骨造として、150の細い柱と、H300のはりで全体を構成して、ブレース、耐震壁なのですけれども、耐震壁をバランスよく配置することで全体を成立させている。その3.15という中で、2.7という高さを取るといふのはかなり苦労したところです。

もう1つ、住宅地の中でどういう素材を使っていくかということで、鉄骨造ということもあつたのですけれども、少しテクスチャー感のある、金属板なのですけれども、住宅のテクスチャーに近いような材料を使いながら、全体をまとめて、近隣の住宅と合うような形の建物にしようというところで計画をしました。

これがグラウンド側です。グラウンド側がきっちり3階に見えるのですけれども、これ道路側なのですけれども、道路側から見るとあたかも2階建てのような、少し圧迫感のない建物にしようというところを考えました。

次に、制限のある中でどういうふう環境をつくっていくか。

実は、こちら側の上の道を挟んで反対側が近隣の南側になるので、全部窓がこちら側に向いている。そうすると、こちら側の特別教室が全て見合うような形だった。

そこで、思い切って、この赤い面といふのは全部壁にしました。逆に、こういう中に少しくぼみをつくってあげて、そこの両面をガラス窓と。そうすることで、両面から採光があるということと、換気もこういうような流れができるので、こちら側の環境もきちんとつくってあげようと。それが、こういうような絵です。こちらの住宅側から見るとあたかも窓がないように見えるのですけれども、中に入るとききちんと窓がある。

もう1つ、どうしても中廊下型の建物になると、風の抜けるところが、

せっかく教室に入った風が抜けるところがなくて、よどみが出てしまいますので、先ほどこのへこんだところをきちんと風の道としてつくってあげて、風が流れるように造っています。なおかつ、ここに階段2つあるのですけれども、階段の上にも自然換気筒を造って、換気を促す形の建物を造っています。

次に「地域の形、森を思わせる子どもたちが活動する広場をつくる」ということで、これは構造的な話になってしまうのですが、150のすごく細い柱と100の方杖というのですが、枝みたいなもので体育館の構造を支えて、実は体育館も向こうの住宅に向いていますので、あまり開口部が開けられないと、その光と風をどういうふうに確保するかというところで、ここにハイサイドライトと自然換気ができる窓を設けて、木漏れ日が落ちてくるようなものを計画しています。

これが、全体の写真です。少し枝と木の中で子どもたちが遊んでいるような風景をつくろうということを意図しました。

次が、品川区立の芳水小学校です。

これは、大崎駅から西に10分ぐらい行った、超高層が建っているのですが、そのすぐ裏に建っているような学校です。

ここは南北の高低差が約11メートルの崖地でした。なおかつ、接道する動線が一步通行だったため、かなり工事環境というのは厳しい状況でした。仮設校舎ありで、建替計画するということで、最終的には敷地形状を生かした、のびやかな校舎を実現しています。

これが、鳥瞰です。

ここが一番低いところなのですが、ここからこちら側ずっと坂道になっていて、この辺とこの辺で11メートルぐらいの段差があります。ここも見て影になっていると思いますけれども、ここもぐっと上がって行って、かなり段差がある敷地になっています。

平面です。ここは地下1階、これが先ほど言った一番低い場所になるのですが、その近くに地域図書館を入れています。1階がこちらなのですが、ですので、こことここで既に4メートルぐらいの段差があります。1階にメディアセンターを置いて、子どもたちがいつでも使えるような、図書を見られるような環境になっている。グラウンドに面して職員室関係が並んでいる。

ホールというのは、防災とか、選挙なんかでも使えるようなホールという形で、グラウンドに面して造っている。

2階です。2階も、敷地がこの赤いラインなのですが、赤い線に沿

ってくねくねと曲がった中に教室が並んでいて、端っこに特別教室があって、2階、3階という形になります。

これも同じです。このときも小学校ですので、6学年あるのですけれども、低学年の1年生、2年生、3年生、4年生、で、高学年の5年生、6年生という形で、ある一定の固まりをもって計画をしています。

建替計画です。

ここは、この道しか使えなくて、しかも一方通行だったので、一通解除を取ってまず仮設校舎を建てました。仮設校舎と屋内運動場とプールを残してこういう形で造っているのですけれども、工事も段差がある中で、ここしか道路に入るところがないという非常に厳しい環境の中で工事をしています。

これもこういう敷地ですので、奥のほうから徐々に造って行って、最後ここが体育館なのですけれども、体育館はどうしても、こちら側を造ってこちら側を造るといって工期がどうしても長くなってしまいますので、体育館だけは鉄骨造にして、少し工期を縮める努力もしています。

こちらができたなら、今度ここまで一通解除をして、こちら側の、プールなのですけれども、プールのほうとグラウンドを造っていると。

これも仮設校舎から併せると1期、2期、3期の工事になっています。

計画のポイントとしては、敷地に沿った校舎配置ということで、先ほどもご説明しましたけれども、これぐらい段差があります。これをどういうふうにするか、実は開発といって、大規模な建物を造ろうとすると、申請が必要で、道路の取付道路ですとか、その辺の規制があるのですけれども、それをどういうふうにするかというところで、これを建物と一体に、建物で崖を押さえてしまう。要は、擁壁、難しい話になってしまうのですけれども、これだけを単独で造ると開発というものになってしまうので、それを回避するために、建物一体でこの崖を押さえるという設計をしています。

斜面地に合わせて、少しバルコニーをセットバックさせることで、グラウンドに入ったときの開放感というものをつくろうというところで、地域もかなり狭いところですので、その辺の圧迫感を軽減していこうというプロジェクトです。

次に「地域と学校が支えあえる学校、地域図書館との複合化」というところで、先ほどもご説明しましたけれども、ここのメディアセンターのすぐ下に地域図書館が入っています。こちら側に学校体育館があって、地域の方の入り口というのがここすぐ入ったところにあって、階段

	<p>を上ればすぐ体育館に行けるということで、明確な機能分離ということを図った計画です。</p> <p>災害のときには、こちら側、プールの下になるのですけれども、広いピロティとホール、日常的には子どもたちが授業で使っていたり、選挙のときに使っていたりするのですけれども、ピロティ空間というのが避難所になったときの機能として、物資を配ったりですとか、避難したペットをここに避難させておく場所として有効に使えると。全体的にここは道がかなり狭かったので、歩道状空地を取りました。下がこういう写真なのですけれども、狭い道路の中に子どもたちにも安全で地域にも安全な通路を造ろうというこのプロジェクトです。</p> <p>最後が「芳水小の歴史を継承する」というところで、もともと、これも非常に建替計画の中で邪魔というか、になったのですけれども、この大きなクスノキをぜひ残そうというところで、門の横にあったクスノキを残す計画としています。</p> <p>こちらの門については、この学校 100 年以上の歴史があるのですけれども、もともとあった門を継承する門、再度材料もそこから取りながら造っていくという、歴史も継承する仕組みをつくっています。</p> <p>以上でございます。ありがとうございます。</p>
<p>教育施設計画 推進担当係長</p>	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>1 例目は、敷地の狭さであるとか、高さの部分で、神明中に参考になるかなというところでご紹介させていただきました。</p> <p>2 つ目の芳水小については、配置図を御覧いただいたように敷地がかなり不整形な中でやられた事例ということでご紹介させていただいたところです。</p> <p>構造とかいろいろ、その辺りは神明中にそのまま使えるかどうかは別として、いろいろな手法を駆使してこのように建っているということがございます。</p> <p>それでは、今日の講義で何かご質問のある方、挙手をお願いいたします。議事録等作成の関係で、最初にお名前を言っていただくと助かりますのでお願いします。どなたかご質問ある方、いらっしゃいますか。</p> <p>ないようであれば、感想とかでも全然構わないのですけれども。</p>
<p>委員</p>	<p>品川の事例、大変興味深いわけですが、仮設の校舎をグラウンドのところにつぶりに造ったということで、そうなるとグラウンドは、ほぼ使えなくなる感じですよ、少しはあるけれども。体育の授業とか、クラブ活動は、どういう形で運営なさっていたのですか。</p>

設計事務所	<p>小学校ですので、クラブ活動はあまりないので、クラブ活動は困らなかったのですけれども、やはりほとんどない状態ですので、このときには屋内運動場の中で子どもたちは体育の授業をしているというのがメインでした。</p> <p>あと、もともとここに滑り台みたいなのがあったのですけれども、その辺だけは少し残して、遊べる場所というのを取っておくという形になっています。</p> <p>それは下石神井小学校でも同様で、最初の頃は少しこういうような広場とかがあったのですけれども、最後のほうになっていくと本当にここだけと体育館というような形の子どもたちの活動場所という形になっています。</p> <p>ただ、できるだけその期間を短くするというのは、工事工程の中で工夫をして、グラウンド工事を全部本当はやりたかったのですけれども、ここだけはグラウンド工事をやる際、1,000平米だけ少し最初に工事をしてしまって、使えるようにしておくという工夫はしています。</p>
教育施設計画推進担当係長	ほかに、ご質問とか感想ある方、いらっしゃいますか。
委員	<p>最初に、高校の事例で、オープンスペースみたいな図書館みたいなところがあったところで、ぐるっと囲みながら、ピロティっぽい、わざわざ会議室を取らなくても、ちょっと話合いができるようなところがあったりとか、階段みたいな、広い階段があったりとかして、この井草の音楽室でも合唱スペースと勉強スペースと分かれていたりするのですけれども、ああいうふうに特別に取らなくても、入り口のところでそういう階段がそういう役目を果たせるような、どこでも歌の練習なんかもできるような、今ちょっとコロナであれですけれども、そういうような、多目的に使えるようなのだけれども、みんなの目があるみたいなスペースを1階の入り口近くに造ることで、地域の人に来て、地域があそこで打ち合わせしてもいいし、合唱とか練習をしていても良いスペースを囲みながらつながれるところは、神明中は変な土地なので、そういう土地の中でも品川の学校みたいに、土地が悪くてもそういうようなつくりというのは造れるものなのではないでしょうか。</p>
設計事務所	<p>努力はしたいと。僕らもこれから学校、先ほどお話したように、地域との関わりですとか、子どもたちが自由に、部活も含めて、いろいろなところでいろいろなことができる。逆に、挑発する、子どもたちをかき立てるような学校を僕らはつくりたいなと思っています。</p>

	<p>ここがうまくいったなと思うのは、実は、中庭があるのですけれども、コロナで合唱部が音楽室で練習できないから、先生たちが中庭でやるのですね。中庭でやると、中庭は囲われているので、すごくきれいに響くのです。子どもたちは3メートルずつ離れながらやるのですけれども。</p> <p>そうしたら、今度何を始めたかという、ここに窓がずっとあるので、そこからコンサートやろうと、下に合唱部がいて、上からみんなが見て、コロナの中でもコンサートをやるんだ、というので、ある意味僕らが思っていなかったことをやっていただきました。</p> <p>逆に、先生ですとか、子どもたちを僕らはかき立てたというのは、すごくいい経験だったなと思って、そういう学校にぜひしたいとは思っています。</p>
教育施設計画 推進担当係長	<p>そのほか、ご質問ある方、いらっしゃいますか。</p>
委員	<p>神明中の裏には天祖神社という神社がございまして、そんな関係もあるのかなということもあって、今回、ラジオ体操を天祖神社でやったのですけれども、周囲のやかましいという問題が、うちは発生しなかったのですけれども、学校の中の騒音が周りに与える影響ということがどのように考えられているかということがちょっと気になったのです。</p> <p>今たくさんの事例を見ましたので、どれもこれもすばらしいし、工期も何期に分かれてやっていくということで、神明中も何とかなるのかなと。これだけのすごい敷地の一方通行の道路を使って建て替えるということができるとことが分かりました。そういう意味ではいいのだなということで、あの敷地で校舎を建て替えて、しかも仮設を造ってなんてことはちょっと考えられなかったのですけれども、そういう点が安心しました。</p> <p>とはいえ、騒音の問題。それから、この校舎もそうでしたけれども、屋上にプールを置くということがどういう効果が出るのか、あるいは今までやった経験の中で、まずかった点は何だったか。やってみただけでも、うまくいったなという点と、やってみただけでも計画どおりの結果が出なかったなということがあれば教えてほしい。</p> <p>以上です。</p>
設計事務所	<p>まず、騒音については、学校が今までのように好まれる施設だけではない、若干迷惑施設になってきてしまっている部分も感じています。</p> <p>そういうところでは、例えば音の出る音楽室をどこに置くかとか、音の激しい、振動の出る技術室なんかをどこに置くか、そういうのはかな</p>

	<p>り配慮しながら計画をいつもしています。</p> <p>目線についても、区の方ですとか教育委員会の方とお話をしていく中で、結論を導き出しています。</p> <p>ただ、一番重要なのは子どもたちの生活だと思っていますので、そこをどう建築的に解決していくかというのは、神明中でも、正直、今すごく悩んでいます。計画をいろいろ立ててはいるのですけれども、うまくいくところと、うまくいかないところ、いろいろあると思います。ただ、ベターな回答というのを一緒につくってあげればいいのかと思っています。</p> <p>もう1つのプールです。プールは、都心だと敷地が狭い中でどこに建てるかと。プールはそんなに大きくないといってもテニスコートより大きいような形になりますので、グラウンドに建ててしまうとグラウンドが狭くなる。そういうところで、芳水小学校の場合には屋上にプールを設置しています。いいのは、グラウンドの面積をきちんと、その分確保できるというのはメリットかなと思っています。</p> <p>あとプールは、小学校でも中学校でも女の子がいますし、周りからの視線というのはやはり気を遣わなければいけない。特に都心だと周りに、神明の場合は皆さん一低層の、そんなに大きくないところなのでそんなに気を遣うことないかなと思っていますけれども、やはりこういう都心ですとそういう視線も配慮するという意味では、屋上に建てるというのは、こういう密集地ではありかなと思っています。</p> <p>欠点としては、やはり地震時です。どうしても水がバシャンバシャンとあふれるので、ある学校ではその水が校舎の中に入ってきてしまっ大変だったという話も聞きますので、その辺の配慮をしながら、きちんと設計をしなければいけないのかなと。あと、重い物を上に乗っけるというのは構造的にはかなり負担がかかりますので、コスト的にもいろいろなことを考えなければいけないというのが、デメリットかなと思っています。</p> <p>でも、やはり一番大きいのは、面積に限られるというのは、屋上に置くというのは大きなメリットかなと思っています。</p>
<p>教育施設計画 推進担当係長</p>	<p>よろしいでしょうか。場所の都合等もありますので、質問は締めさせていただきます。もし何かありましたら事務局のほうにご連絡いただければ確認させていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>皆様、佐藤総合計画に拍手をお願いいたします。(拍手)</p> <p>それでは、全体を通して、学識の先生にご講評をよろしくお願いた</p>

	<p>します。</p>
委員	<p>どうも皆さん、お疲れさまでした。</p> <p>大変有意義な見学と、それから、佐藤総合さんの今までの大変長い大きな蓄積があるところの、そこからスタディなさってきた学校とはどうあるべきかと、大変すばらしいレクチャーを受けまして、非常に実りのある半日だったなと思います。</p> <p>僕、せっかく設計してくださるスタッフの方々、頑張ってくださいているので、どんなお考えなのか、どんなところが事例としてあり得るのかというのを、フランクにお互いに議論して、突っ込んで聞いて、こういうコミュニケーションの中でいい学校ができていくというのは理想的だと思います。すごくいい雰囲気ですスタートしたので、私は大変期待しております。</p> <p>それで、今日、事例として今までの作品を2つ紹介していただきましたけれども、それぞれ大変意味のある、格好いい、なかなかいい空間で、コンセプトもよく分かりましたし、何よりも神明中学校の非常に不思議な、難しい、ああいう変則的敷地の中での可能性を皆さん、大変不安に思っていたところ、今日の品川の芳水小学校はもっと難しいのを見事にクリアされたということで、皆さん、大変不安が解けたのではないかなと、そういう意味でも非常に重要な、今日は見学会とレクチャーだったと思います。</p> <p>僕ももっといろいろ伺いたいことがあったし、杉二のときは、仮校舎ができてしまうことによって運動場がすごく少なくなるということ大変重視して、本当に神経質なぐらいに重視していたので、今日はそういう問題があまり出てこなくて、「あれだけ残っていればいいや」ぐらいの中にいたので、この辺も本当はどうなのか、どのぐらいのもの、あるいは代替地が必要なのかとか、そういう議論も当然出てくると思いますので、今日もいろいろ問題のきっかけをたくさん教えていただけたと思います。本当に有意義な今日は見学会ができて、皆さん、ありがとうございます。そして、何よりも佐藤総合の皆さん、ありがとうございました。</p>
教育施設計画 推進担当係長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後、事務局から連絡事項、4点いたします。</p> <p>まず1つ目は、6月24日に開催した第2回懇談会の議事録案、今日封筒に入れておきましたが、ご自身の発言をご確認いただきまして、内容に修正がございましたら事務局にご連絡ください。本日ご欠席の方に</p>



	<p>も別途送付しますので、ある方、8月25日までにご連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>2点目は、改築ニュースになります。皆様にも郵送でお送りさせていただきましたが、保護者の方や近隣の皆様に検討状況をお知らせするニュース、第1号を7月に発行いたしました。</p> <p>配布先につきましては、今回の懇談会委員の方、それ以外には所属する団体、あと、桃一小、桃三小の保護者にも学校を通じて配布させていただいております。近隣につきましては、敷地境界大体50メートルぐらいの範囲、330世帯ほどにはポスティングをさせていただきまして、全部で5,500枚ほど、資料は配布させていただいたことになっております。</p> <p>3つ目が、第4回懇談会なのですが、今回、送付が漏れておりまして大変申し訳ありませんでした。後日また郵送でお送りしますが、8月25日木曜日の午後2時から、神明中学校の体育館で開催いたしますので、よろしくようお願いいたします。次回は、基本方針の続きと配置案についてご議論いただく予定です。</p> <p>最後になりますけれども、本日、この後、皆様、来たバスに乗って帰っていただきます。神明中までお送りいたします。バスに乗らないで、ここで帰られるという方、いらっしゃいませんか。</p> <p>そうしましたら、それ以外の方、下のほうに速やかに行ってくださいと思います。</p> <p>本日お配りしました配付物、あとペットボトルについては、お手数なのですがお持ち帰りいただきますよう、ご協力をお願いいたします。</p> <p>事務連絡は以上です。</p> <p>最後、学校整備担当部長から、一言お願いします。</p>
<p>学校整備担当部長</p>	<p>どうも皆さん、ありがとうございました。大変有意義な施設見学会、それから、佐藤総合さんからの大変示唆に富むご指摘といたしますか、ご提案を頂いたなと思っています。ありがとうございました。</p> <p>先生から代替校庭をどうするのだという話がありましたけれども、通常、杉並ですと、近隣の学校に何とかご理解を頂いて、これはもうお互いさまですから、お願いをするというケースが多ございます。</p> <p>神明中につきましても、恐らく仮設を建てると、さっきの品川や練馬の小学校みたいにほとんど地べたがないという形になると思います。その時期が来ましたら、近隣の小学校、特に中学校、教育委員会のほうでお願いをして、何とかできる限り、子どもたちに支障のないように対応</p>

	<p>してまいりたいなと思ってございます。1点だけ、ご質問にお答えさせていただきます。</p> <p>本日は、本当に暑い中お越しいただきましてありがとうございます。これから通知につきましても漏れることのないように、しっかりとやらせていただきますので、これからもどうぞよろしく願いをいたします。ありがとうございました。</p>
<p>教育施設計画 推進担当係長</p>	<p>それでは、本日、これで閉会といたします。どうも皆さん、ありがとうございました。</p>